

平成二十八年度国文学科講義題目, 編集後記,
執筆者紹介, 奥付

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-11-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4614

平成二十八年年度 国文学科講義題目

大学入門ゼミ

田原広史・長谷あゆす・森西真弓

東野敏夫

文学の読み方

中周子・森西真弓・檀原みずす

東野敏夫

日本語表現ゼミ

森西 真弓

国文学入門 A

田原広史・中周子・長谷あゆす

東野敏夫・奈良崎英穂・青木治道

国文学入門 B

田原広史・中周子・長谷あゆす

東野敏夫・奈良崎英穂・青木治道

日本文化論

白川 哲郎

日本文学概論

中 周子

日本語学概論

田原 広史

古典文法概論

木村 雅則

現代文法概論

田原 広史

文学作品講読(上代・中古) A

中 周子

文学作品講読(上代・中古) B

生井真理子

文学作品講読(中世・近世) A・B 長谷あゆす

文学作品講読(近代・現代) A
文学作品講読(近代・現代) B

日本語講読 A

日本語講読 B

古典文学史

近現代文学史

古典文学研究 A

古典文学研究 B

古典文学研究 C・D

近現代文学研究 A

近現代文学研究 B

日本語学研究 A

日本語学研究 B

仮名書法 A・B

仮名書法 C・D

漢字書法 A・B

漢字書法 C・D

漢字仮名交じり書法 A

篆刻法

調和体書法

創作法 A

創作法 B・C

書の鑑賞

檀原みずす

奈良崎英穂

木村 雅則

田原 広史

中 周子

檀原みずす

中 周子

白川 哲郎

長谷あゆす

檀原みずす

奈良崎英穂

木村 雅則

田原 広史

森川史実代

森川史実代

長岡 悦子

城市 悦美

東野 敏夫

東野 敏夫

東野 敏夫

東野 敏夫

宮崎 彰夫

美濃 幸男

書論 A

書論 B

出版編集企画論

著作権概説

創作理論と実践 A

創作理論と実践 B

創作演習 A

創作演習 B

創作演習 C

創作演習 D

創作演習 E

マンガ編集企画論

作品制作基礎

作品制作応用

CG基礎

キャラクター制作演習 A・B

編集企画論

サブカルチャー史

キャラクタービジネス論

広告企画論

デジタルコンテンツ論

情報メディア論

美濃 幸男

城市 悦美

森西 真弓

嶋崎さや香

奈良崎英穂

安田 純生

奈良崎英穂

森西 真弓

酒多 隆子

田中 新一

山口佐知子

青木 治道

藤原 舞子

藤原 舞子

都築 由浩

南 大佑

青木 治道

青木 治道

應矢 泰紀

大島 一豊

酒多 隆子

都築 由浩

江 弘毅

キャラクターと著作権

創作演習F

創作演習H

作品制作演習C・D

サブカルチャー研究A・B

研究入門ゼミA・B

田原広史・檀原みずず・中周子

東野敏夫・奈良崎英穂・青木治道

発展ゼミA・B

田原広史・長谷あゆす・檀原みずず

東野敏夫・奈良崎英穂・小笠原成彦

南天佑

発展ゼミC・D

田原広史・中周子・檀原みずず

宮崎彰夫・奈良崎英穂・青木治道

南 天佑

書写A・B

漢文講読A・B

中国書道史

日本書道史

中国文学

中国文学史

国語科教科教育法A・B

嶋崎さやか

南 天佑

小笠原成彦

小笠原成彦

應矢 泰紀

應矢 泰紀

田原広史・檀原みずず・中周子

東野敏夫・奈良崎英穂・青木治道

田原広史・長谷あゆす・檀原みずず

東野敏夫・奈良崎英穂・小笠原成彦

南天佑

田原広史・中周子・檀原みずず

宮崎彰夫・奈良崎英穂・青木治道

南 天佑

書写A・B

漢文講読A・B

中国書道史

日本書道史

中国文学

中国文学史

国語科教科教育法A・B

木村 雅則

池田 光子

国語科教科教育法C・D
書道科教科教育法A・B

木村有美子
東野 敏夫

編集後記

大阪樟蔭女子大学国語国文学会では、本誌である樟蔭国文学及び国文学会報を発行している。このうち、樟蔭国文学については、他大学の学会や研究機関に寄贈し、各論文は大阪樟蔭女子大学リポジトリに順次掲載し、閲覧に供している。国文学会報については、学科、教員、学生、卒業生の近況を紹介するといった内容を、国文学科在学生及び卒業生を中心に構成される学会員に年一度お届けしている。増え続ける会員（卒業生）に対し、その費用を支える現役学生の負担、並びに昨今の郵便事情に鑑み、今回、送付の継続を希望するかどうかを問うアンケートをおこなったが、果たせるかな継続送付を希望する会員は十分の程度となってしまった。バンドラの匣を、いや浦島太郎の玉手箱を開けてしまったのか。いずれにしても、目の前の現実を受入れなければならないということなのだろう。

本号においては、非常勤講師として国文学科を支えて下さっている、木村雅則、生井真理子両先生、卒業生であり本学で地域日本語教室を開いている樋口尊子さんにご投稿いただいた。また、関西大学名誉教授の浦西和彦先生のお許しを得て、昨年度開催した国文学科公開講演会にて、先生にご講義いただいた、田辺聖子の研究に関するご講演内容を掲載させていただいた。学科教員の森西真弓教授には研究ノート、嶋崎さや香講師には、学生がおこなっているユニークな学習活動を報告していただいた。

平成二十九年度は、いよいよ樟蔭学園創立百周年を迎える。歴史の重みを感じつつ、将来を考えたい。

（国文学科長 田原広史）

執筆者紹介

森西真弓

本学教授

樋口尊子

本学国文学科・平成十六年卒業
本学非常勤講師

木村雅則

大和大学教育学部准教授
本学非常勤講師

生井真理子

本学非常勤講師
関西大学名誉教授

嶋西和彦

本学講師

嶋崎さや香

樟蔭国文学 第五十三号

平成二十九年三月一日発行

大阪樟蔭女子大学
国語国文学会
編集者

(代表者 田原広史)

大阪市北区大淀南二一六―五
株式会社 共和印刷
印刷所

電話〇六六四五八九六一

五七七―八五五〇

東大阪市菱屋西四丁目一番二六号

大阪樟蔭女子大学国文学科

大阪樟蔭女子大学

発行所 国語国文学会

電話〇六六七三八一八一